

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
観光ビジネス実務総論 Introduction to Tourism Business		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(観光ビジネス実務士必修科目)	全学生 観光フィールドの学生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ホテル業概論 観光学概論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
観光学演習				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
伊藤優子	2階	水曜日・木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
観光ビジネスは21世紀の主要産業となっている。様々な分野への波及効果、経済効果が大きく、観光ビジネスへの期待が増している。観光立国宣言を行なってから、一般的な国内旅行、海外旅行だけでなく、訪日外国人旅行も注目されている。多様な産業の視点から観光ビジネス、観光産業の専門的知識を構築する。				
授業の目標				
①観光産業全般のしくみと仕事の役割、連携について考えることができるようにする。 ②日本の観光政策を学び、観光政策における課題・問題点について考え、新しい提案をすることができるようにする。 ③観光産業において実践的に社会に貢献できるようにする。 ④新しい観光のあり方を研究し、さらに今後可能性のあるツーリズムを探求できるようにする。				
授業の方法				
教科書を使用し、講義形式で行なう。観光ビジネスの事例を提示し、現在の課題を考え、検討する。				
学習の成果（学習成果）				
①観光の基礎的知識を再確認し、専門的知識を社会の現場で活かすことができる。 ②日本の観光政策を学び課題を見つけることができる。 ③国内旅行、海外旅行の新しい企画を創出することができる。訪日外国人旅行に関して、これからの日本を見つめ直し、新しい魅力を見出すことができる。 ④世界遺産のメリット、デメリットを理解し、地域との共存を考えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	観光の意味と現代における観光の意義 人気の観光地			
第2回目	旅行業の仕事内容と役割			
第3回目	国内旅行の現状・海外旅行の現状			
第4回目	航空業界の現状と課題			
第5回目	航空会社の変遷と今後の課題			
第6回目	LCCとFSAの比較			

第7回目	宿泊業の現状と課題	
第8回目	旅館の取り組み・ホテルの取り組み	
第9回目	ユネスコと世界遺産の現状	
第10回目	宿泊業の現状と課題	
第11回目	世界遺産の意義を考える	
第12回目	訪日外国人旅行の現状と課題	
第13回目	訪日外国人旅行の事例	
第14回目	ガイドとツアーコンダクター	
第15回目	ツアーコンダクターのトラブル・クレーム	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	30%	授業に集中し、ノートをとる。不明なことがあれば積極的に質問する。自分の意見を述べるなどが評価の対象となる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	10%	課題を出したら、期限内に提出を原則とする。S評価の基準：課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。S=90-100
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	旅行業、宿泊業、交通運輸機関など各項目の学習度が高いものとする。S評価の基準：S=90-100
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
観光概論（JTB総合研究所）		
履修上の留意点・ルール		
遅刻厳禁。私語は慎むこと。授業途中で無断で退出禁止。携帯電話の使用禁止。飲食厳禁。		